「部局の取扱い」

上記について

なお

(1)
席に腰掛けたのだ。いったい何が起きたのかわからない。A子は、その場に立つ
まま、キツネにまとめられたような表情で周りを見ている。確かに、私の席は
この辺りだった」というようになる。けれども空いている席は一つもない。B男は
何事もなかったようにしている。

A子はしばらくその場に立っていたが、「仕方がない。もう一度、椅子を
持ってこよう」と気持ちを切り替えたのか、廊下に片付けてある椅子を走って
取りに行く。

（〈隣に座らないで〉

A子は急いで「自分の座っていた場所の前まで戻って」椅子を持ってくる
のが、椅子を置げるようなすき間はない。椅子を抱えながら「何の。なぜな
の」と、不満そうにほほを膨らませて立っている。

やがてあきらめたのか、A子はゆっくりと、一列目の端に歩き始めた。せめ
て一番前で先生の読んでくる絵本を見たかったのだろうか。

そのとき、一番端に座っていたC子が、「A子をすごい顔で下からにらみつけ
る。声は小さいが口を大きく開けて「だめ、座らないでよ」とA子に向かっ
て言う。まるでかみつきそうな雰囲気だ。おかげに、A子が椅子を置こうとし
た場所に右足を大きく広げて邪魔をする（何ということもだろう。子どもでもこ
んな怖い顔をして、相手をいらみ、隣に座ることを拒否するのだ。A子の気持
ちになってみたらいいのに。A子は、C子を避けるようにして列の後ろのほうに並ぶ。みんなが並んでいる
列から後方に少し離れている（この位置取りが、A子の置かれた状況や気持ちを表しているようで、見ているほうが苦しくなる）。悲しくなってきたのだ。
そのとき、先生が「八百屋のお店に並んだ品物を見てごらん……」と遊漬歌を
始めた。A子は涙をぬぐいながら、歌に合わせてそっと手を打った。「トマト
バチバチ・ニンジン・バチバチ・ダイコン・バチバチ・キュウリ・バチバチ」と先生とクラスメートの掛け合いが続く。歌に誘われ拍手もなくなり、A子
の表情が落ち着いてきた。最後に、先生が「ほうし」と歌ったとき、A子は
こり笑った。
幼稚園での一日は、大人が想像する以上にいろいろな出来事に満ちている。
うれしいことをぶれ、納得のいかないことや悲しいこともたくさんある。で
も、せめて一日の終わりは、気持ちよく終わりにしたいものだ。VTR撮り
ながら「こんなに理不尽なことが起きて、この子は気持ちが傷ついたまま帰宅するのだろうか」と心配だった。しかし先生の遊び歌で、みるみるA子の表情が変わり、最後にこの満面の笑顔が現れたとき、正直言ってホッとした。このとき、帰りかけのひと遊びや、手遊びのちょっと意義を再認識した。当然のことながら、担任の先生はこんなドラマがあったことにはおそらく気づいていない。

また、涙ぐんでいるA子の様子を誰も知らなかったわけではない。足で邪魔をしたC子の近くに座っていた少女が「振り返って心配そうに見ていて。ま」だ助けたりはしないけれど、後ろに座った少女の悲しさや不満をわかっているのだ。そこで、予想を超える子どもの力を見せつけられた気がした。

「座らないでよ」と邪魔をしたC子は、特に問題がある子ではない。不可解だったので、翌週にもう一度様子を見に行った。ごく普通のやさしい女の子だった。この場面だけで判断してはならない、と思う。この出来事の前に、何が起こっていたのかを観察者の私は知らないのだから。私の見えてなかった関係、C子にはC子の違うドラマがあったに違いない。現在、私は（二）の場面でA子に起きた理不尽なできごとに気づいたののは、ビデオを十回以上も繰り返し見ていたからだ。

（鎌倉女子短期大学）